

受講申し込みについて



[申込受付期間]

立教 175 年 11 月 26 日（月）～立教 176 年 1 月 20 日（日）

[申込方法]

下記の申込事項を記入し、はがき、FAX、E-mail にてひのきしんスクールまでお申し込み下さい。

なお、ひのきしんスクールのホームページからも申し込みが可能です。

※電話での申し込みは固くお断りしております。

[申込事項]

1. 氏名(ふりがな)
2. 郵便番号
3. 住所
4. 電話番号
5. 生年月日
6. 直属・所属教会名
7. 希望分科会名（分科会番号 1～7）

※分科会は必ず**第3希望**までご記入下さい。分科会の内容については、本紙中面をご参照下さい。

[受講までの流れ]

1. 申し込み締め切り後、希望の中より分科会を決定いたします。
2. 2月中旬頃に決定した分科会名と受講方法についてご案内を郵送いたします。



ひのきしんスクールシンポジウム 「明日のひのきしんを考える ひのきしんミーティング」

私たちの周りには、たすけを待ち望んでいる人々がたくさんおられます。悩み苦しむ人々へのおたすけは、教祖にもっとも喜んでいただけるひのきしんです。

来年は、教祖 130 年祭へ向かう三年千日の 1 年目。おたすけ活動をさらに積極的に進めるこの旬に、具体的で身近な活動の提言を通して、ひのきしんの実践を共に考え、おたすけ活動推進の一助となることを目的として開催します。

○期 日：立教 176 年 3 月 25 日（月）開場 12:30

○会 場：本部施設(南右第 2 棟ほか)

○内 容：・全体会「明日のひのきしんを考える」

【コメンテーター】白木原 嘉彦氏（本部准員・本芝大教会長）

松尾 真理子氏（加古大教会長夫人）

【司会】鈴木 顕太郎（ひのきしんスクール運営委員）

・分科会「ひのきしんミーティング ～今、私にできること～」
ー7つの分野に分かれて、身近なひのきしんについて語り合うー
※詳細は中面をご覧ください。

○対 象：ようぼく（教区選出者含む）

○定 員：500 名（定員になり次第締め切り）

○参加費：無料

申し込み・問い合わせ

ひのきしんスクール事務局（布教部ひのきしん課内）

〒632-8501 天理市三島町 271

TEL 0743-63-2314 FAX 0743-63-7578

E-mail h-sc@tenrikyo.or.jp

ホームページ <http://fukyo.tenrikyo.or.jp/h-sc/>

▼携帯QRコード



プログラム

12:30	受付
13:00	全体会「明日のひのきしんを考える」
15:00	移動 ※各分科会の教室に移動します。
15:20	分科会「ひのきしんミーティング ～今、私にできること～」
17:15	解散

分科会について

- 以下の7つの分野の中から、希望する分科会を第3希望まで選択し、申し込みの際に希望分科会名（分科会番号1～7）をご記入下さい。

1 『精神の疾患と障害』おたすけと支援の為に

増え続けている「うつ病」。「統合失調症」の患者数は減少傾向ですが、「入院医療中心から地域生活中心へ」との国の精神保健福祉施策の変更により、療養の場は地域に移りつつあります。そんな中でようぼくや教会に何ができるのか、語り合います。

○吉村 誠 氏（東宇治分教会長・元憩の家精神神経科看護師長）他

2 生きづらさを抱えた子ども達と向き合って

子ども達は、色々な生きづらさを抱えて生きています。親も同様であります。今回は特に、不登校児の生きづらさやその原因、さらに家族への支援の方法について、共々に学んでいきます。

○久保 永子 氏（憩の家臨床心理士）他

3 親神様のふところ住まい 緑化推進

壊れ行く地球環境、荒廃する人々の心。どこかで歯止めをかけなければなりません。一本の樹木・一輪の花に心を向ける時、親神様の懐に抱かれてこそその「命」に気がきます。身近なところから、さあ、緑化ひのきしん。

○長谷川 佳孝 氏（営繕部造園課総括・ひのきしんスクール研究員）他

4 知的障害や発達障害児者とその家族を支える

知的障害（精神遅滞）や、知的な遅れはないものの特別な支援が必要とされる発達障害を、教理的にはどう思案したらよいのでしょうか。

また、彼らやその家族を支える具体的な手立てについても語り合います。

○新田 恒夫 氏（蘇我町分教会長・NPO 法人スペース海 代表）

5 図書修理ひのきしんの輪を広げよう

図書修理ひのきしんをこれから始めようとする人には、活動の意義と喜びを知ってもらい、すでに活動をしている人には、様々な技術やアイデアなどの情報交換を行い、一層の活動の「輪」の広がりをめざします。

○西 一夫 氏（赤岡分教会長）他

6 高齢者とともに“まち”を紡ぐ、教会・ようぼく

教会やようぼくが行っている活動の発表を通じて、地域社会において、教外組織とも協働しながら、いかにして高齢者支援のひのきしん活動を行っていくのか、その視点と方法について考えるとともに、活動ノウハウの共有化をめざします。

○渡辺 一城 氏

（ひのきしんスクール運営委員・天理大学人間学部人間関係学科社会福祉専攻准教授）他

7 地域で私にできること

日々の神恩感謝の心を、あなたの住む地域で態度に表わしてみませんか。たとえ特別な技術や知識がなくても、誰にでもできるひのきしん。形や人数にこだわらず、見返りを求めないで、地域の中で続けられるひのきしんをいっしょに探していきましょう。

○若狭 一廣 氏（ひのきしんスクール運営委員・船東分教会長）